

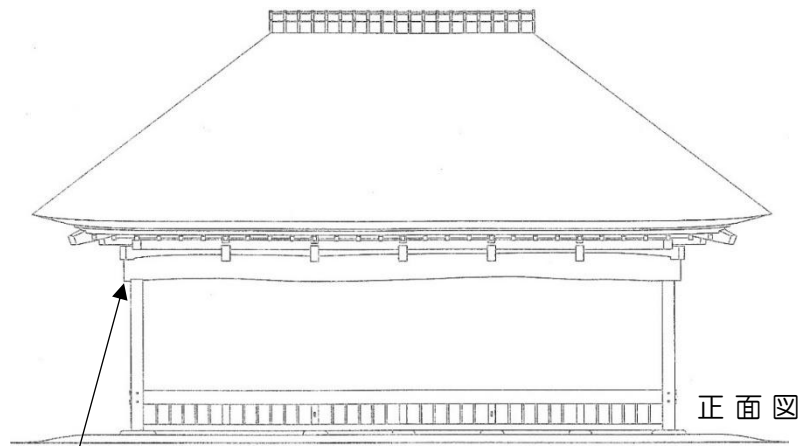
農村歌舞伎舞台

(1) 歴史 明治8年(1875)、現在の千葉県成田市前林まえばやし(旧大栄町)に建てられた諏訪神社拝殿の再現建物です。地元資料によると、地元青年有志による地狂言上演の舞台を主目的とした建設でした。江戸時代から昭和初期頃まで、村人自身による「農村歌舞伎」が、村人最大の娯楽だった村が全国にありましたが、県内でも常設・仮設の農村歌舞伎舞台が各地にありました。前林の農村歌舞伎の詳細については不明ですが、戦後もしばらくの間は、芸能大会や映画会、地方巡業の芝居が、諏訪神社拝殿で行われていました。

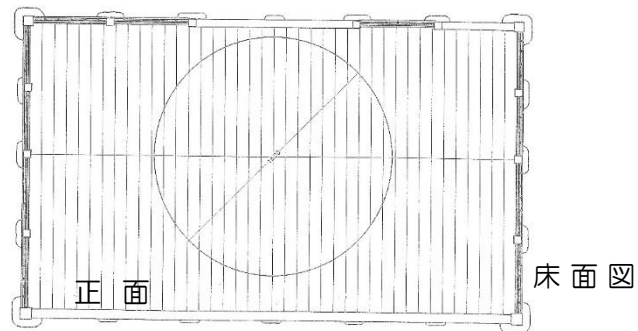
(2) 建物概要 間口六間、奥行四間で、寄棟造りの茅葺き建物です。舞台中央には、芝居の場面転換を行うため、床を大きく円形に切った廻り舞台を備えています。床下のならく奈落に心棒が続いており、その心棒を人力で廻して、廻り舞台を回転させるようになっています。

なお諏訪神社では拝殿背面中央の2間は壁を作らず、渡廊がその2間に取り付き、一間社ながれづくり流造の本殿正面まで伸びています。当館では拝殿のみを農村歌舞伎舞台として再現し、中央間2間に板戸を付けています。

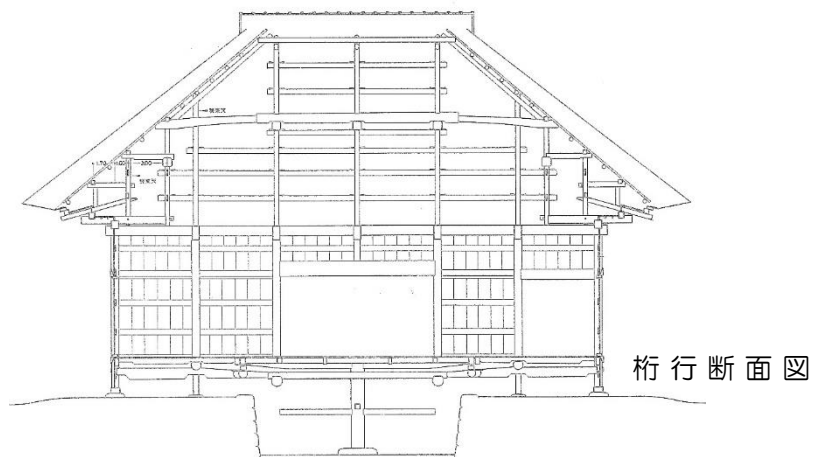
(3) みどころ



こうりょう
虹梁 舞台正面の梁は長さ6間(約12m)で、
樹齢約250年の松材です。

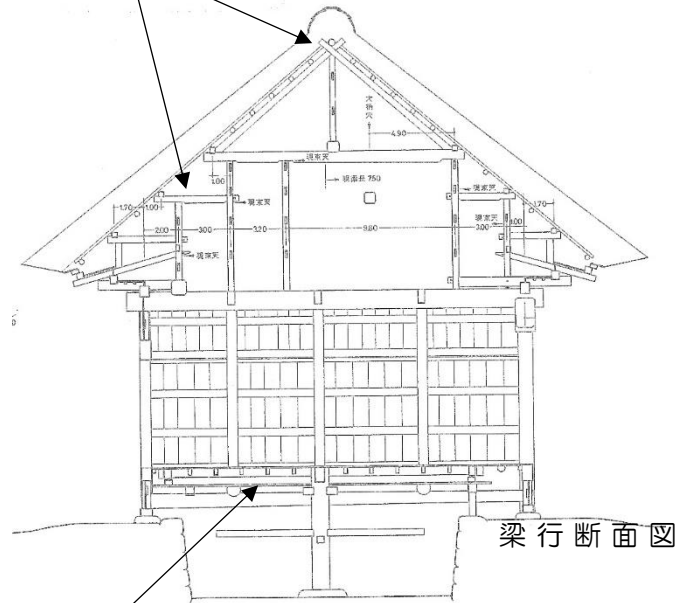


廻り舞台 床面に廻り舞台を切ってます。背後
は特に接近しています。



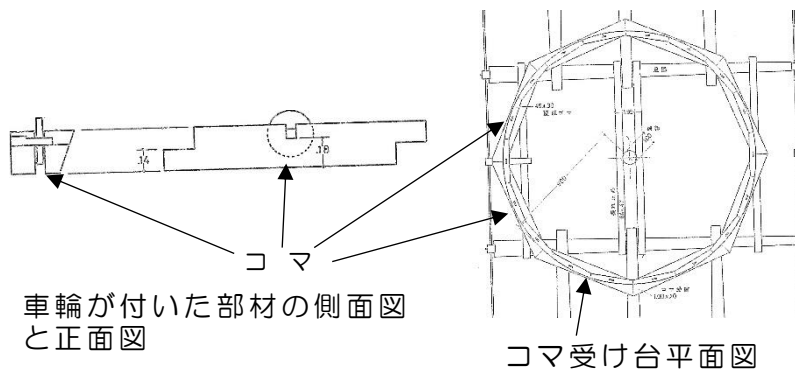
だしげた
出桁造り 四面の軒先に腕木うでぎを伸ばし、軒の出を
深くし、重厚さを演出しています。「せがい造」
ともいいます。

扱首まきすと和小屋 上部は、二又のように頂部で緊結した2本の材で棟木を支える扱首構造です。下部は真束しんづかを梁に立てた和小屋構造です。



梁行断面図

廻転床 心棒が当たる部分を彫り込んだ礎石（軸受石）に、廻転床と一体となった心棒を差し、腕木の押し廻しで、床を回転させる独楽廻し式です。



車輪が付いた部材の側面図と正面図

コマ受け台平面図

コマ受け台 廻転床の下には、18個の車輪（コマ）が付いたコマ受け台が取り付けられています。床が回転すると、車輪が回り、床を安定して廻します。上左は車輪が付いた部材で、上右図は、この部材18個が正18角形に組まれたコマ受け台の平面図です。